

令和5年度（2023年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立 小浜幼稚園	園長名	中内 規子
----	------------	-----	-------

1 学校教育目標

たくましく生き抜く子ども育成

2 重点目標

・友達と伝え合い、共に育つ子ども	・自ら考えて、最後までやり遂げる子ども	・地域のよさを感じ、地域を愛する子ども
------------------	---------------------	---------------------

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	
学校運営	開かれた園づくり	A	ホームページをこまめに更新し、園の様子を発信することで、保護者だけではなく地域の方にも園児の様子や成長を知っていただけた。またオープンスクールや運動会などの行事で地域の方・未就園児・卒園児とその保護者などたくさんの方に参加いただけた	4 評価項目ごとの学校関係者評価 卒園児保護者・地域の人たちもホームページをよく閲覧している。情報発信がしっかりできている。運動会や生活発表会では、園児の頑張りの成果が、オープンスクールでは教師が園児にどのように接しているかよくわかった。
	危機管理体制の推進	A	毎朝・毎月、安全点検を行い安全管理に努め、修繕が必要な箇所は迅速に対応した。また、様々なシチュエーションの訓練を行ったり、必要な情報を伝えたりして、園児が自分で考えて動くよう取り組んだ。集団生活において、健康に過ごすことができるように、自分自身や身の回りの衛生管理について、保健指導や日々の関わりの中で指導してきた。	
教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	A	担任が作成した週の指導計画を読むことで、どんな援助をし、どのように保育を進めるのか、目的と過程を職員が共通理解し、日々の保育に当たることができた。 職員全員が普段から子どもたちの様子をしっかりと見たり、子どもたちの姿について協議する機会を頻繁に設けたりしたことで、その都度子どもたちに合わせた保育をしたり、環境を整えたりすることができた。	先生たちのかかわりがよく見え、子どもが安心して幼稚園に通っていた。 生活発表会や、運動会の行事をみても、どの子どもも生き生きと活動していた。より細やかな点にも配慮された保育が行われていた。 運動会で発表した竹馬や生活発表会でのダンス、普段の園庭での運動など、体力向上面の取組も評価できる。

	道徳性の芽生えの育成	自然・動物とのふれあいから命の大切さに気付く。友達との関りから思いを伝えたり、相手を理解したりする力を育てる	A	チョウチョ、カタツムリ、オタマジャクシ・カエルなどの世話をする中で、命の誕生と終わりを知り、命の儚さ・大切さに気付くことができたと感じる。また、友達や先生に対し、自分のことばで自分の思いを伝える場や時間を多く設けたことで、友達を尊重し、考え合う力がついたと感じる。	幼児期こそ、生き物や植物とのかかわりが大切だと思う。幼稚園生活で命の大切さを身近に感じる事が出来たと思う。「自分の思いを自分の言葉で伝える」ことが日々の中で大切にされそれによって友達を尊重し、考え合う力がついたことは評価できる。
課題教育	人権教育	教師の人権意識を高め、人権尊重を姿で保育にあたる	A	園内研修やブロック研修会を通して職員の人権意識を養い、子どもたちへのかかわり方を改めて見つめなおすことができた。 また、一年間、なかよしタイムを計画的に実施できた。子どもたちの課題や実情に合わせて年間計画から内容を変更するなど、臨機応変に対応できた。特にLGBTについて力を入れたことで、子どもたちの「男の子だから」「女の子だから」といった考えを薄めることができたと考える。	人権感覚は幼い時から肌で感じて身につけ、成長して行ってほしい。日々の生活のなかで、子どもにかかわる人権課題はたくさんある。子ども自身が自分を大切に、人を大切にすることを培ってほしい。なかよしタイムなどで実践を重ねたことは、子ども達の中で生きていると思う。園児の状況に合わせて柔軟に変更したこと、LGBTについての取組の成果が見られたことは評価できる。
	ICT教育	ICTを利用した保育の工夫を図る	A	Teamsを使って他園との交流を行い、自分たちの取組を伝え、また他の園の話聞くことで互いにより影響を与えることができた。日々の保育や保健指導、なかよしタイムにタブレット端末やテレビを活用し、幼児の理解が得やすくなるような工夫をしたり、わからないことをその場で調べたりした。	これからの時代、ICT教育は大切である。オンライン交流や、調べ学習など活用していることはいいことだと思う。限られた数のパソコンの中でよく取り組んでいると思う。
独自項目	特別支援教育	個々の幼児の発達に即した指導や支援を工夫する。	A	全体での指導においては、イラストや文字などの教材を用いて、視覚的に理解しやすいような工夫を行った。子どもたちそれぞれの力を伸ばせるよう、特性を理解し個々に合わせた支援を行った。職員間で常に情報共有したことで、子どもたちの実情を全員が把握し、同じようなかかわり方ができたと感じる。	個々に合わせた支援・指導を行っている。子どもが伸び伸びと育ち、自信をもって行動しているのがよくわかる。職員間で常に情報共有し、個々の園児の特性に合わせた指導が行われていた。
	保幼小中連携の推進	子どもたちにとって連続性・一貫性のある学びとなるよう保幼小の連携を図る。	B	保幼小中の連携会議を行い、各校種での取組や課題、また互いへの要望を話し合う機会をもてた。また幼小の交流遊びだけではなく、日々の小学校の行事に参加したりして、小学校に対しての期待をもてる機会があった。	交流だけが連携ではないと思うが、まずは互いを知ることが大切だと思うので、その点は取り組んでいると思う。子どもを中心とした連携をこれからも進めてほしい。保育所・幼稚園・小学校をまとめる中心的な役割を果たしていた。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

適切に評価している。

評価の観点や評価項目が整理され、取り組み状況も要点がまとめられておりわかりやすい。

6 総合的な学校関係者評価

園の情報を公開し、地域の幼稚園として活動してきた。

教職員みんなで、子どもを大切にされた保育に努めていることがよくわかる。内容的にもよくまとめられ、適切な評価がなされている。

7 市教育委員会等への要望

幼児教育を重視しているのか？公立幼稚園の重要性をわかってほしい。地域にとっては大切なものである。園児や児童にとっても大切なものである。(地域の方、評議員)

「あのね」に相談したら、すべて公立幼稚園を紹介する。特別支援幼稚園にするつもりなのかと思う。配慮が必要な子が多くなると、子どもに細かな目が行き届かなくなる。保護者はそれを心配して、私立幼稚園に流れていく。

3年保育があれば、公立幼稚園に通わせたい親はたくさんいる。人数が少ないからと簡単に閉園してほしくない。ただ、保護者も小学校に入学してしまえば、この思いも消えていくから、公立幼稚園への応援が続かないこともある。(保護者)

今まで小浜幼稚園が果たしていた、地域・幼稚園・保育所・小学校をまとめる役割が閉園後も失われないように、市教育委員会の方で対策を講じてほしい(地域の方、評議員)

閉園後、園舎、園庭、園周辺(桜の花のあと、秋の落ち葉など、今まで幼稚園の方で清掃していた)について、今後の管理をきちんとお願いしたい。どこが窓口になるか等も地域に明示してほしい。(地域の方、評議員)

- (1) 評価の観点及び評価項目設定については、各園の実情に応じて、また各園独自の言葉で設定・作成してください。
- (2) 幼稚園が「1」「2」「3」をとりまとめて学校関係者評価委員会で説明し、学校関係者評価委員会は、評価の結果を「4」「5」「6」に簡潔にまとめ、園は学校関係者評価の結果を踏まえて報告書を作成し報告してください。また結果の公表に努めてください。